

## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：下保 修

事業名	一般国道487号 藤脇バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	広島県																							
起終点	自：広島県呉市音戸町藤脇 至：広島県呉市音戸町藤脇	延長	1.8 km																									
事業概要	<p>一般国道487号は、広島県呉市を起点とし、「江能倉橋島半島振興地域」を経て、広島市に至る延長約62kmの幹線道路である。</p> <p>藤脇バイパスは、家屋連坦区域の狭小幅員解消による合併市町間や江能倉橋島半島振興地域の連携強化を目的とした、延長1.8kmの2車線道路である。</p>																											
H5年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H6年度用地着手	H7年度工事着手																									
全体事業費	4.4億円	事業進捗率	77.0%	供用済延長	0.0km																							
計画交通量	7,500台/日																											
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B/C</td> <td style="text-align: center;">(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)</td> <td style="text-align: center;">14.4</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	(事業全体)	2.1	(残事業)	14.4		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/ (事業全体)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7.7/5.6億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業費)</td> <td style="text-align: center;">6.0/5.4億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(維持管理費)</td> <td style="text-align: center;">1.7/1.7億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/ (事業全体)	7.7/5.6億円		(事業費)	6.0/5.4億円	(維持管理費)	1.7/1.7億円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/ (事業全体)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1.16/1.16億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益)</td> <td style="text-align: center;">112/112億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行経費減少便益)</td> <td style="text-align: center;">2.4/2.4億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(交通事故減少便益)</td> <td style="text-align: center;">0.77/0.77億円</td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/ (事業全体)	1.16/1.16億円		(走行時間短縮便益)	112/112億円	(走行経費減少便益)	2.4/2.4億円	(交通事故減少便益)	0.77/0.77億円	基準年 平成19年
B/C	(事業全体)	2.1																										
(残事業)	14.4																											
総費用	(残事業)/ (事業全体)																											
7.7/5.6億円																												
(事業費)	6.0/5.4億円																											
(維持管理費)	1.7/1.7億円																											
総便益	(残事業)/ (事業全体)																											
1.16/1.16億円																												
(走行時間短縮便益)	112/112億円																											
(走行経費減少便益)	2.4/2.4億円																											
(交通事故減少便益)	0.77/0.77億円																											
感度分析の結果	<p>残事業費（事業全体）について感度分析を実施</p> <p>交通量変動：B/C=16.7（交通量+10%） B/C=13.7（交通量-10%）</p> <p>事業量変動：B/C=13.8（事業費+10%） B/C=16.8（事業費-10%）</p>																											
事業の効果等	<p>現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する（呉-音戸）</p> <p>現道における大型車のすれ違い困難区間を解消する。</p> <p style="text-align: right;">他5項目に該当</p>																											
関係する地方公共団体等の意見	<p>当該路線は、合併建設計画においても主要事業にあげられているが、狭あい線形も悪く大型車の通行や離合が困難な状況にあり、歩行者の安全性や緊急時の対応についても支障をきたしている。</p>																											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>平成17年3月20日に広島県呉市と音戸町を含み1市6町の合併が行われ合併建設計画の主要事業に位置付けられた。</p>																											
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>平成20年度までに用地買収を完了させ、平成21年度に藤脇第2トンネルの工事を発注し、早期の事業完了を目指し推進を図る。</p>																											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>用地交渉難航により遅れていたが、平成22年度に供用予定である。</p>																											
施設の構造や工法の変更等	<p>既に施工済みの藤脇第1トンネル工事建設残土を呉市の港湾事業に流用することにより、残土処分費を軽減している。今後発注する藤脇第2トンネルについても、同様の取り組みによりコストを縮減に努める。</p>																											
対応方針	<p>対応方針決定の理由</p> <p>以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>																											
事業概要図	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 2;"> </div> <div style="flex: 1;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—————</td> <td>供 用 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■■■■■</td> <td>事 業 中</td> </tr> </table> </div> </div>					凡 例		—————	供 用 中	■■■■■	事 業 中																	
凡 例																												
—————	供 用 中																											
■■■■■	事 業 中																											

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。